

■チリ：再エネ発電設備が2017年までに倍増の見通し

チリの持続可能エネルギー開発・促進センター（CIFES）は2016年1月15日、2015年12月の再エネ発電実績を発表した。12月の再エネ電源による発電電力量は7億2,900万kWhで、全電源の11.7%を占めた。2015年12月末現在で運転中の再エネ発電設備は263万kWで、建設中の再エネ発電設備が282万kW、環境評価をクリアした再エネ発電設備容量が1,810万kWであった。建設中の設備の内訳は、太陽光が84%、風力8%、太陽熱（CSP）4%、地熱2%、小水力2%であった。CIFESによると現在建設中の設備は2017年10月までにすべて運開する予定で、その時点での設備容量は現在の倍増となる見通しである。